

日本政府は、SDGsに賛同する企業・団体・個人を選んでいます。

詳しくは SDGs 日本 総合

An aerial photograph of a coastal town, likely Oki City, showing a long sandy beach, industrial buildings, and agricultural fields. The town stretches along the coastline under a clear blue sky.

リサイクルの町から
世界の未来をつくる町へ

鹿児島県大崎町 環境政策課



大崎町の概要

人口 11,853人 世帯数 6,550世帯

(令和7年4月1日現在)

面 積 100.64km² 農業が主幹産業





焼却施設がない



埋立処分場の残余年数の逼迫



埋立処分場の延命化

3つの選択肢

- 1 焼却炉の建設 ×
⇒建設費・維持費の問題
- 2 新たな埋立処分場の建設 ×
⇒周辺住民の理解が得づらい
- 3 既存の埋立処分場の延命化 ○
⇒分別ルールの策定・住民への説明

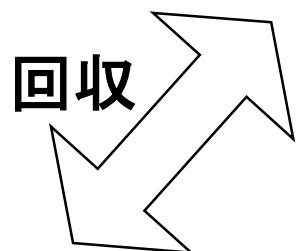


大崎リサイクルシステム

- 埋立処分場の延命化という目的を達成のため、住民と行政と企業という3つの主体が協働・連携することで信頼関係が構築され、大きな効果（メリット）を生み出す仕組み



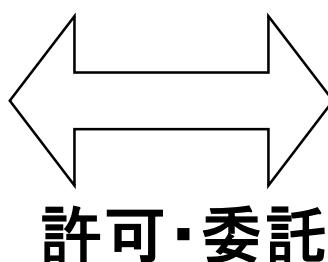
住 民
(家庭)
(事業所)



協働・連携
そして信頼



企 業
(リサイクルセンター)
(收集業者)



行 政
(大崎町)



行政の役割

- ・システム（法律）の整備
- ・収集したごみの出口（最終処分先）確保
- ・ごみ出し日、時間、場所、収集ルートの決定
- ・分別品目を決める
- ・地域リーダーを決めて指導
- ・環境学習会の開催



分別を開始する時、大崎町は150の地域で約450回の説明を行いました。
今でも年1回、約150の地域リーダーへの研修会を行っています。

住民の役割

まず家庭・事業所で
きれいに分別する



分別したゴミを出す
ステーションで種類ごとに出す



企業の役割

ごみの検査

行政の委託による
ごみの回収

検査後は商品として出荷する



家庭ごみの正しい分け方と正しい出し方

資源ごみの日(祝日も収集) 每月第[]回目の木曜日・収集時間は[]～[]に指定収集場へ

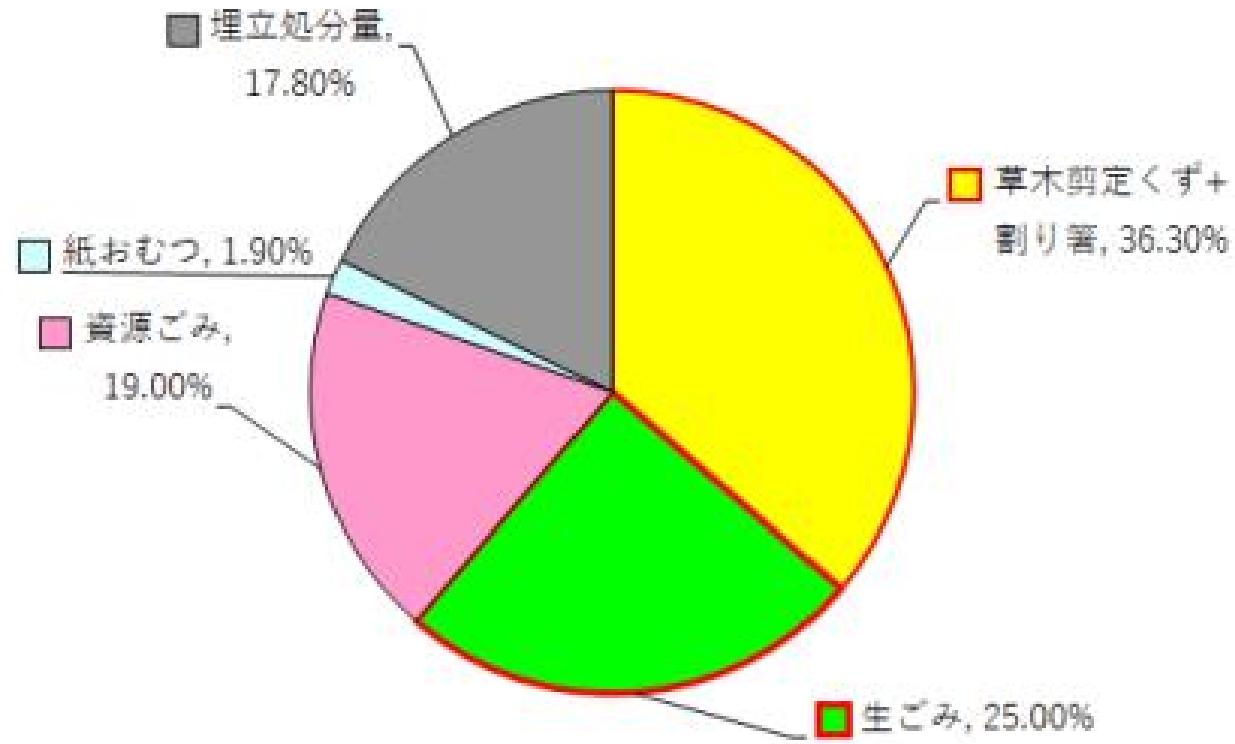
資源ごみ	①空き缶 (フタを除く・アルミ缶) つぶれない 一輪の蓋に入ります	②生きビン リサイクル可能	③茶色ビン リサイクル可能	④無色 透明ビン リサイクル可能	⑤その他 のビン リサイクル可能	⑥ペット ボトル リサイクル可能	⑦ダンボール・ グラフト袋 (段ボール) リサイクル可能	⑧製園机 ・チラシ リサイクル可能	⑨複数・複合紙 リサイクル可能	⑩コピー 用紙 リサイクル可能	⑪ジュレッ ター紙 リサイクル可能	⑫紙パック リサイクル可能	⑬紙箱 ・包装紙 リサイクル可能	⑭その他の紙類 書類・包装紙・袋 (段ボール等リサイクル)
ラベルはそのまま、フタは必ず外す														
中身の残らないよう使いきり、軽く水洗いする。たばこの煙は避けないでください														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														
資源ごみ														</td



大崎町の品目別の組成割合

(令和 6 年度実績)

堆肥化約 60 %



プラごみ一括回収

品目	組成割合	重量 (kg)
草木剪定くず+割り箸	36.3%	1,279,521.9
生ごみ	25.0%	880,820
プラスチック	5.7%	202,621
空き瓶(生き瓶・茶瓶・透明瓶・その他瓶)	2.1%	72858.4
新聞・チラシ	1.5%	54,510
雑誌・雑古紙	1.7%	61,115
ダンボール	1.1%	37,795
古布	1.2%	41,657
その他紙製容器	1.3%	47,198
ペットボトル	0.8%	28,900.8
空き缶 (アルミ・スチール)	0.6%	22,302.6
小型家電	0.9%	31,141
雑金属	0.6%	22,026
陶器類	0.5%	18,609.6
紙箱・包装紙	0.2%	6,710
廃油	0.2%	7,583.5
牛乳パック	0.1%	4,205
シュレッダー	0.1%	3,097
スプレー缶等	0.1%	4,930.4
電池	0.1%	4,236
蛍光灯	0.1%	1,350.4
コピー用紙	0.1%	1,205
紙おむつ	1.9%	67,952.6
埋立処分量 (一般・粗大)	17.8%	629,552
合計	100.0%	3,528,928.2

「菜の花エコプロジェクト」イメージ図



ごみ収集車の燃料へ
BDF(ディーゼルエンジン代替燃料)



混ぜればゴミ、分ければ資源

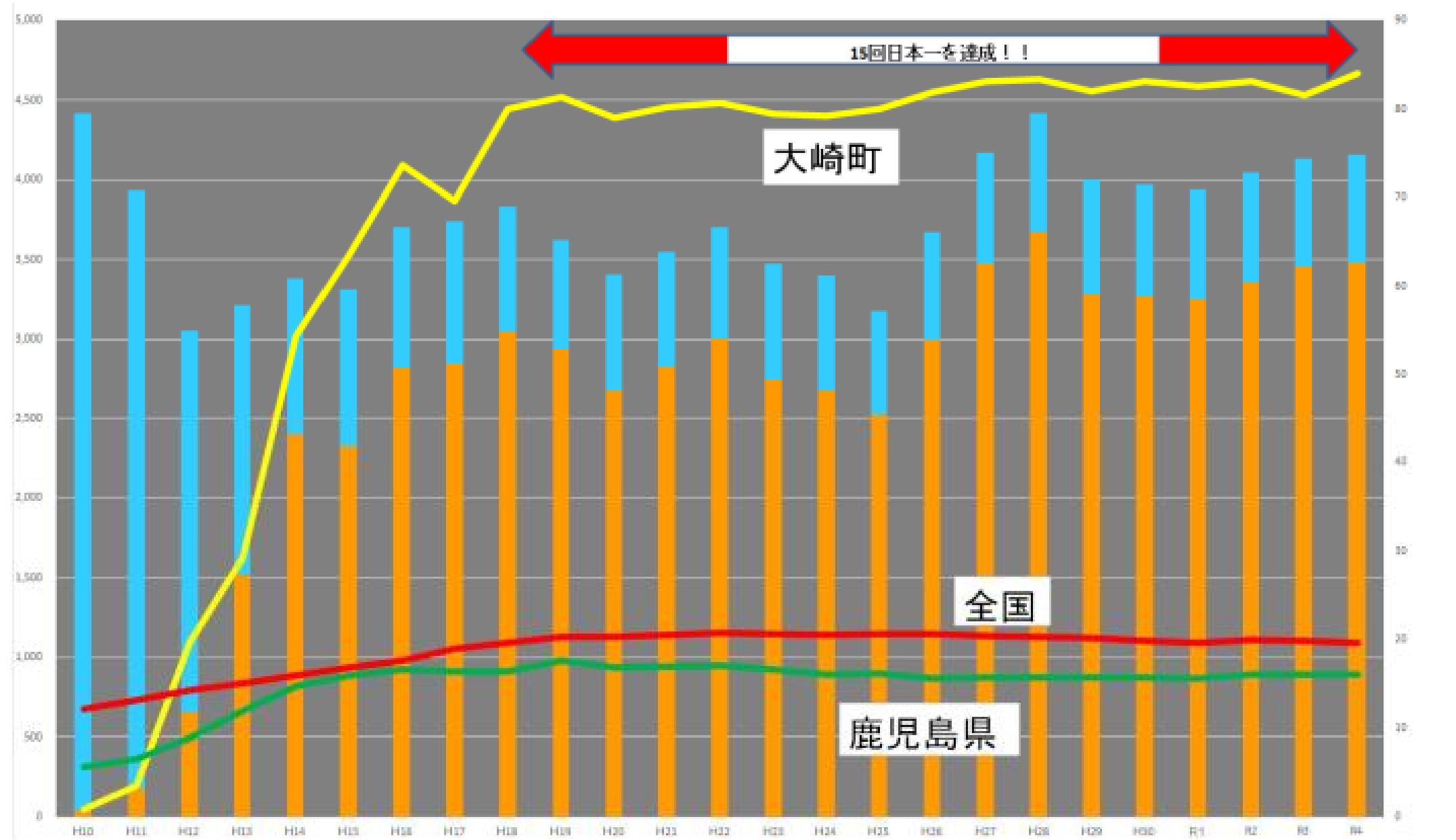
28品目分別

リサイクル率 83.0 %

(令和5年度実績)

16回目の日本 No.1

大崎リサイクルシステムのメリット（埋立ゴミ量の削減）





大崎リサイクルシステムのメリット

(1人当たりのゴミ処理経費の削減)

住民の皆さんごみを分別しリサイクルすることで、1人当たりのごみ処理経費は全国平均の約73%で処理できています。

これは、全国平均と比較して年間で約5~6千万円が節約され、福祉や教育といった他の分野に使われることで、本町の財政的にも大きな効果が得られています。

大崎町の取り組みは、低コストで持続可能な資源循環型の廃棄物処理システムと言えます。

大崎町のごみ処理総経費

$13,400\text{円} \times 11,967\text{人} = 160,357,800\text{円}$

仮に全国平均のごみ処理に取組んだ場合

$18,300\text{円} \times 11,967\text{人} = 218,996,100\text{円}$

※ $218,996,100\text{円} - 160,357,800\text{円} = 58,638,300\text{円}$ の節約 (約5~6万千円)

項目	全国平均	大崎町		
	令和5年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実態調査時人口	125,068,896人	12,532人	12,346人	11,967人
ごみのリサイクル率	19.5%	81.6%	84.0%	83.0%
1人当たりごみ処理事業経費	約18,300円	約11,700円	約12,600円	約13,400円

$(18,300\text{円} - 13,400\text{円}) \times 11,967\text{人} = 58,638,300\text{円}$ 約5~6千万円/年が、福祉・教育等他分野へ



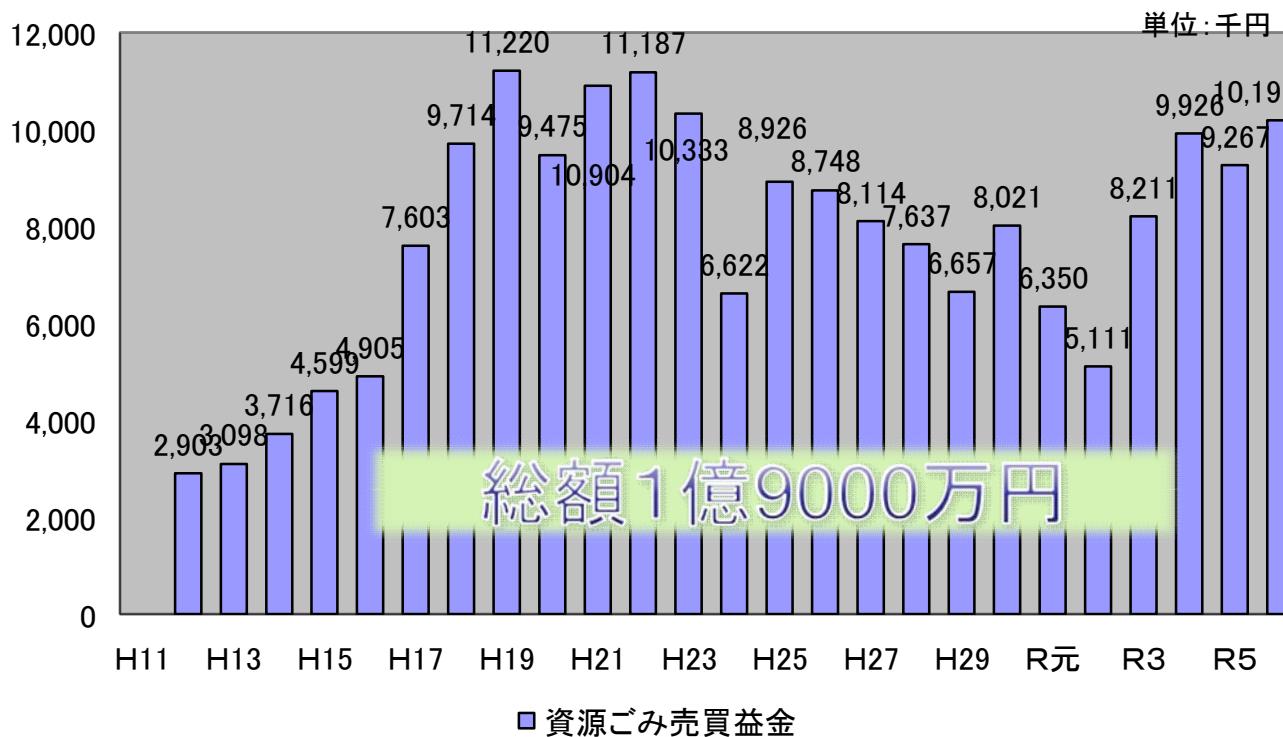
大崎リサイクルシステムのメリット

(資源ごみ売却益金の発生)

住民の皆さんに分別された資源ごみは素材ごとに分けられリサイクルされますが、その一部は有料で売却できるものがあります。

有価物の価格は相場により変動するので一定ではありませんが
令和6年度で約1,000万円が町の収入となっています。

分別を始めてから現在までの売却益金の合計は、約1億9,000万円にもなっています。



資源ごみから生まれた

【リサイクル未来創生奨学ローン】の開始

平成30年11月から資源ごみの売却益金の一部を活用し、リサイクル未来創生奨学金制度を開始しました。

大崎町が長年取り組んできた、家庭から出された資源ごみが再び価値あるものとして活用される持続可能な資源循環型社会づくりのように、大崎町で育った人材が勉学に励むことを支援し、故郷の活性化を担う人材に成長し、再び大崎町に定住し、活躍することを促進するために創られた新しい奨学制度です。



大崎リサイクルシステムのメリット (雇用の増加)

大崎町にあるリサイクルセンターでは、近隣自治体も合わせて100,000人分の資源ゴミを取り扱っていて、50人程度の雇用が生まれています。

分別の取り組みをすることで非常に大きな経済効果が出ていると言えます。





大崎の掲げる構想

サーキュラービレッジ構想

リサイクルの町から、
世界の未来をつくる町へ



2024年までを第一期としておよそ10億円をかけて、資源循環型のモデル都市（サーキュラービレッジ）整備事業を実施

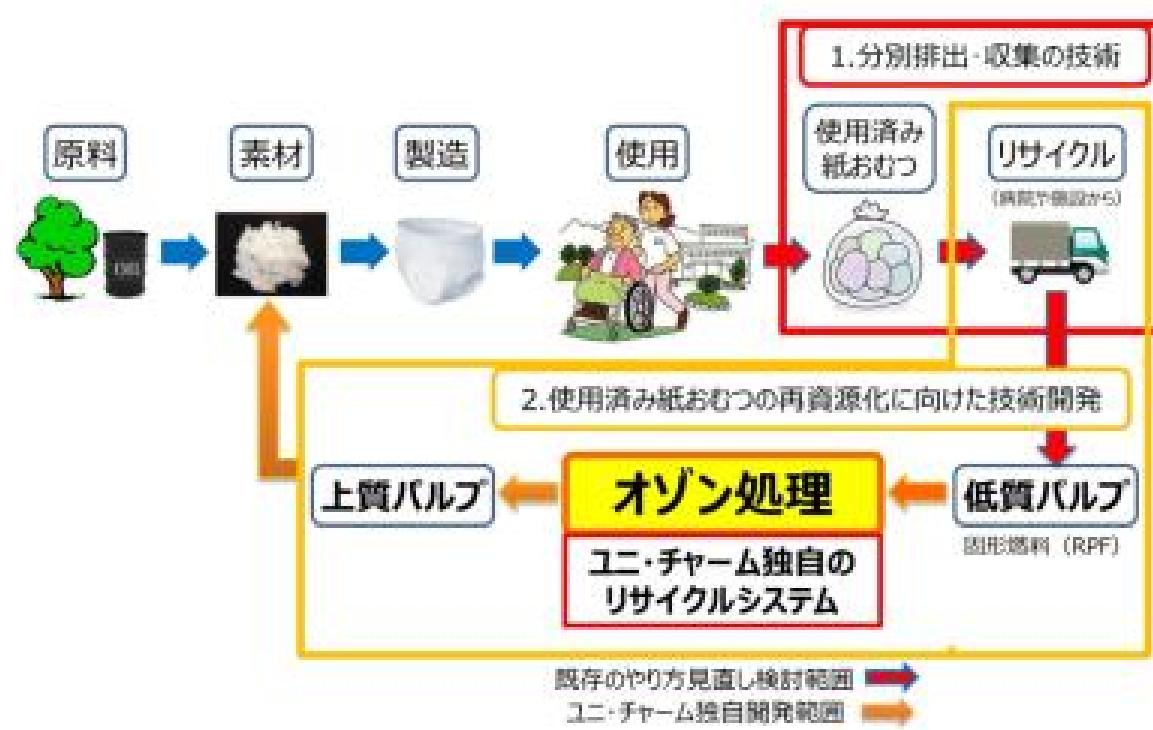
その予算として企業版ふるさと納税を活用

企業には大崎町で実施する実証実験に、積極的に人材派遣を要請し、企業と地域が一体となって社会課題解決に向けて挑戦

新たな動き・企業との連携

リサイクルの町から、
世界の未来をつくる町へ

紙おむつのライフサイクルと技術開発



大崎町・志布志市・ユニ・チャーム・そお
リサイクルセンター協働の実証実験

→現在埋め立てられているゴミの1/3が紙
おむつ

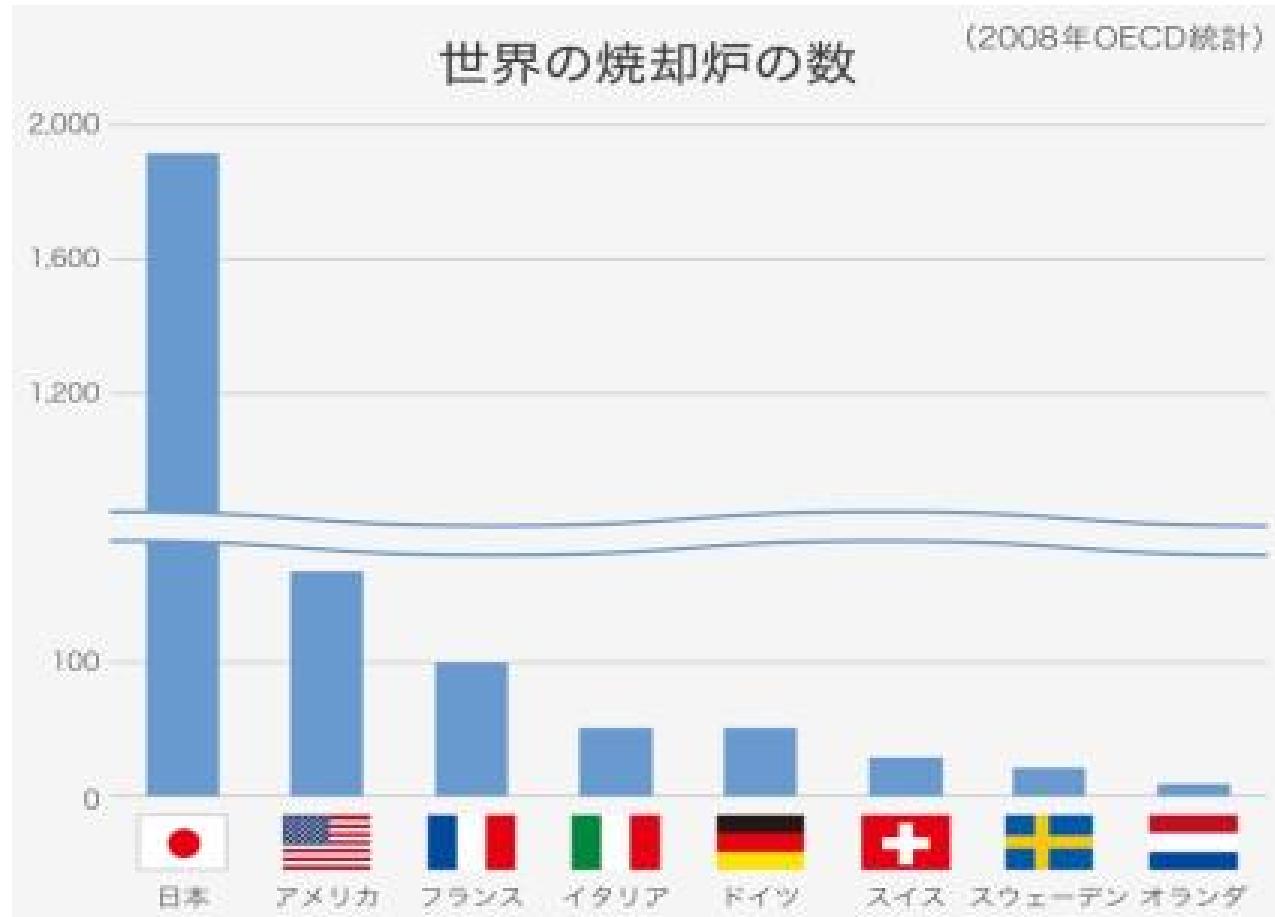
→リサイクルできれば大崎町の埋立処分場
のさらなる延命化につながる

→日本は紙おむつの輸出大国

→環境配慮型の取り組みの推進へ

令和5年度末 日本の焼却炉数

1,004施設



Yahoo ! ニュース：なぜ燃やす？2兆円超、8割が水の生ごみも
焼却ごみ量・焼却炉数ともに世界一の日本



『世界標準。』 大崎